平成２４年度学力向上に向けた取組

函館市立 赤川　小学校　　学級数　　7

視点１：アプローチの視点に基づいた，「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標　みんなとともにかがやく子
自他を尊重し　仲良く協力しあい　自らの考えをもって　意欲的に学ぶ子の育成

Ａ各教科・領域等における系統性や，他の教科・領域等との関連に配慮する	Ｂ長期的な見通しをもって，学習内容を確実に定着させる	Ｃ校内研究の進め方を見直す	Ｄ授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

１　取組のきっかけ

昨年度及び過去の学力状況調査，各学年のＣＲＴの結果等から，本校の学力の状況において，基礎・基本的な内容の定着に課題があることが明らかになった。

各教科の勉強は大切で，将来に必要なものと思っている子は多いのだが，家での勉強時間はかなり短いという傾向にあり，学習意欲と学習習慣が結びついていないこともわかった。

そのため，今年度から重点教育目標の「意欲的に学ぶ」子の育成に焦点を絞り，基礎・基本的な内容の定着を図り，学習習慣と学力の向上を目指すこととした。

２　取組の位置付け

昨年度は教務部の中に校内研究を位置付けていたが，今年度は研究部を独立して組織し，研究を推進している。

３　取組の方法

学習内容を理解するには，これまでの内容の基礎・基本を習得し，積み重ねてきていることが必要である。過去の基礎・基本的な内容の定着が不十分な児童には，系統的な学び直しや繰り返しの学習が重要であることから，今年度は算数科を窓口に研究を進めることとした。

１学期は，算数科の各領域ごとでの，学級の傾向や個別の実態把握を行った。各単元毎に，評価観点別の各学年の平均点数や児童一人一人の得点を集計し，得意な領域や不得意な領域について比較・検討してきている。

取組の成果と課題等

○　取組の成果

・算数科における各領域・単元ごとでの学年の傾向や個別の実態把握

（成果）→各学年の不得意とする領域を把握することができ，学校全体の傾向をとらえることができた。

単元毎に，児童一人一人の観点別評価や学級平均点数を職員内で共有した。これにより個別の支援体制を充実させたり，補充的な学習に取り組むことにより，基礎・基本の定着を図ることができた。

・系統性に着目した算数科の授業改善

（成果）→単元に入る前に既習事項の定着状況をリサーチすることにより，授業の組み立てを工夫することができ，学習内容の定着を図ることができた。

児童一人一人が１時間の中で複数回の理解度チェックすることにより，達成感を得ることができ，学習意欲が高まった。

児童アンケートの「学校の勉強がわかる」という項目では，全校児童の８５．４％が「そう思う」「だいたいそう思う」と答えており，基礎・基本的な内容の定着が図られてきている。

○　教育課程検証の方法

・１２月に実施した学校評価における教職員評価，保護者アンケート，児童アンケートの結果を冬季休業中に学校評価　委員会で比較・検討する。改善点を新年度準備委員会で具体化し，教育課程委員会で新年度計画に反映させる。

・全学年で実施するＣＲＴの結果を教育課程委員会で分析し，学年の実態把握を行う。昨年度との比較・検討も行い，学力の定着度，得意・不得意な領域・単元などに配慮して新年度の指導計画を改善する。